

県内企業景況調査結果

(2024年10~12月期実績、2025年1~3月期見通し)

— 県内景況は、拡大している —

(前回)県内景況は、拡大している

- 業況判断D.I.は「好転」超幅が大幅に縮小したものの、**11期連続のプラス**
来期は「好転」超幅がほぼ横這いの見通し (4ページ)
- 景況天気は10期連続の「晴れ」。来期も引き続き「晴れ」となる見通し (7ページ)

■主要D.I.(カッコ内は前回調査からの変動幅、単位:%ポイント)

(参考)

	業況判断D.I.	景況天気	売上D.I.	採算水準D.I.	資金繰りD.I.	雇用判断D.I.
当期 実績	9.7 (▲12.3)	 晴れ 14.2(▲6.0)	13.0 (▲10.9)	28.7 (▲0.6)	1.0 (▲6.3)	54.0 (▲3.3)
来期 見通し	9.0	 晴れ 12.9	13.3	26.7	▲1.3	54.7

[調査内容についてのお問い合わせ先]

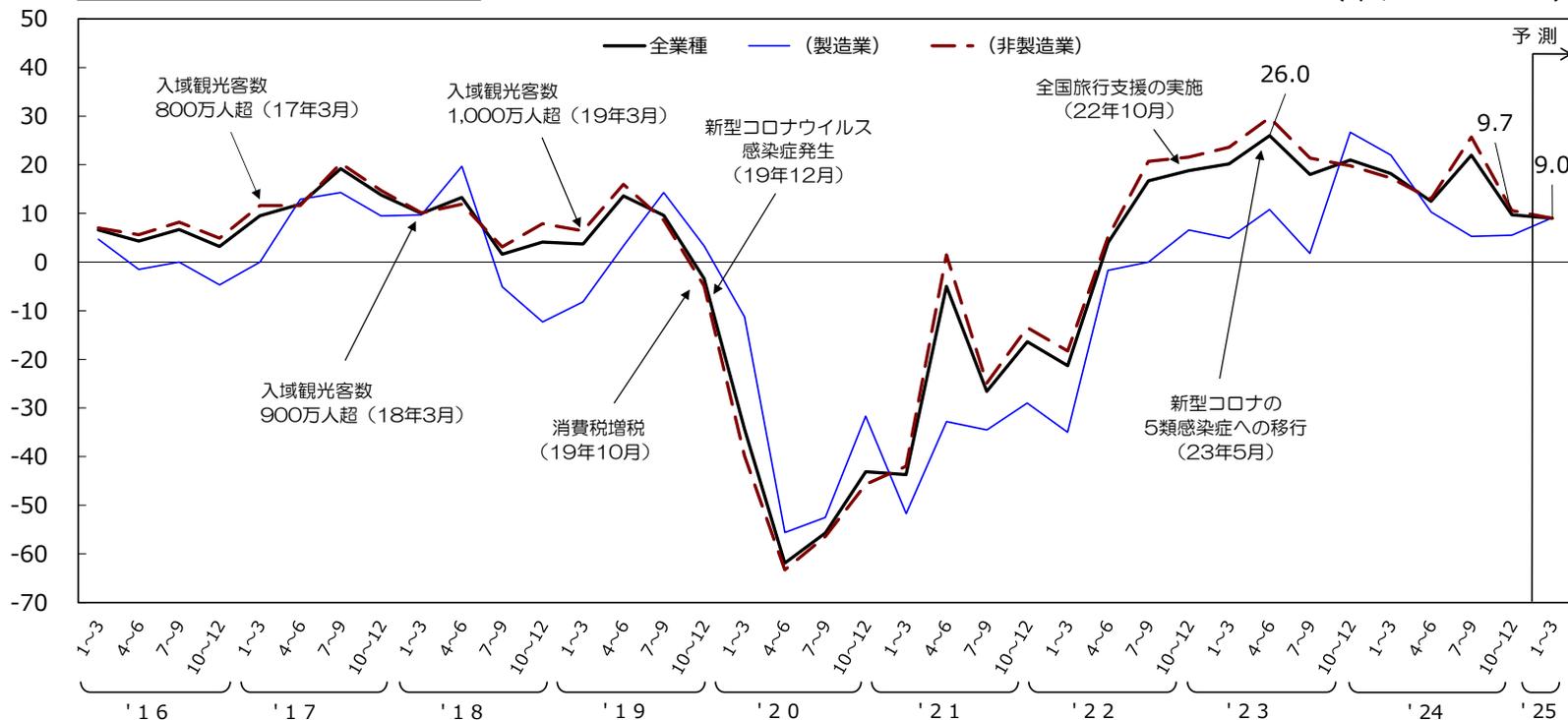
調査部 金融経済調査課(担当:松本) 沖縄県那覇市おもろまち1-2-26 電話:098-941-1725

調査結果の概要 (I)業況判断D.I.

- 実績(10~12月期):「好転」超幅が大幅に縮小したものの、**11期連続のプラス** [前期22.0%ポイント(以下、単位省略)⇒当期9.7]
 - 観光需要、個人消費が堅調に推移し、建設需要も底堅さがみられることから、県内景況は拡大している
- 見通し(1~3月期):来期は「好転」超幅がほぼ横這いの見通し [来期9.0]
 - 人手不足、原材料高、人件費増の影響はあるも、県内景況は総じて拡大基調が続くとみられる

図表I 業況判断D.I.の推移

(単位:%ポイント)



(2)景況天気図 (売上D.I.、採算水準D.I.、資金繰りD.I.の平均値)

- 実績：10期連続の「 晴れ」 [前期20.2⇒ 当期14.2]

製造業、運輸業、サービス業で引き続き「 (晴れ)」

卸売業、小売業、飲食店・宿泊業で「 (快晴)」 → 「 (晴れ)」

建設業、情報通信業で引き続き「 (薄曇り)」

- 見通し：引き続き「 晴れ」となる見通し [来期12.9]

製造業、卸売業、小売業、運輸業で引き続き「 (晴れ)」

サービス業、飲食店・宿泊業で「 (晴れ)」 → 「 (薄曇り)」

建設業、情報通信業で引き続き「 (薄曇り)」

図表2 全産業における景況天気図の推移

(単位:%ポイント)

区分	2023年		2024年				2025年	
	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期		
	実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	 17.7	 21.0	 18.1	 16.6	 20.2	 (15.9)	 14.2	 12.9

 快晴 — 30以上~100以下
  晴 — 10以上~30未満
  薄曇り — △5以上~10未満
 曇り — △30以上~△5未満
  雨 — △100以上~△30未満

I. 調査要領

1. 調査目的

本調査は、県内における企業の景況を把握し、企業経営のための情報を提供することを目的とする。

2. 調査対象

沖縄県内に本社のある法人企業のうち、原則として資本金1千万円以上かつ従業員数20名以上の企業を対象とする。

3. 調査対象企業数及び回答状況

項目 業種	調査対象 企業数 (A)	回答数 (B)	回答率 (%) (B)/(A) ×100
全産業(※1)	369	300	81.3
製造業	68	55	80.9
建設業	67	56	83.6
卸売業	49	41	83.7
小売業	47	35	74.5
運輸業	33	30	90.9
情報通信業(※2)	23	16	69.6
サービス業	46	40	87.0
飲食店・宿泊業	33	24	72.7

※1 全産業には電力・ガス、不動産業が含まれるため、各業種合計と全産業の値は一致しない。

※2 情報通信業は、①通信業、②放送業、③情報サービス業、④出版・新聞業から構成される。

4. 調査方法

対象企業に調査票を郵送し自計記入またはWEB調査システムからの回答を求める方法。

5. 調査対象期間

当期:2024年10~12月期実績

来期:2025年1~3月期見通し

6. 調査実施期間

2024年11月中旬~2024年12月上旬

(発送:2024年11月14日、回収基準日:2024年12月2日)

7. 用語説明等

- 本調査は、原則として前年同期との比較による調査であるが、採算水準、在庫水準、雇用判断については当該期に関する質問となっている。
- D.I. (Diffusion Index) とは、質問に対しプラス、中立、マイナスの3つの選択肢を用意し、このうちプラスと答えた企業の割合から、マイナスと答えた企業の割合を差し引いたものである。
- 景況天気については、売上、採算水準、資金繰りD.I.を平均し、その値を5段階に区分して判定している。

Ⅱ. 調査結果 Ⅰ. 業況判断

— 当期は「好転」超幅が大幅に縮小したものの、11期連続のプラス
来期は「好転」超幅がほぼ横這いの見通し —

- 自社の業況を総合的に判断する当期の業況判断D.I.（全産業）は9.7と、11期連続のプラスとなった。
- 全産業ベースで「好転」超幅が大幅に縮小し、観光関連サービス業で天候不良や人件費の負担による「悪化」回答があったものの、サービス業を除くすべての業種で引き続き「好転」超となった。
- 来期の業況判断D.I.は9.0と、「好転」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

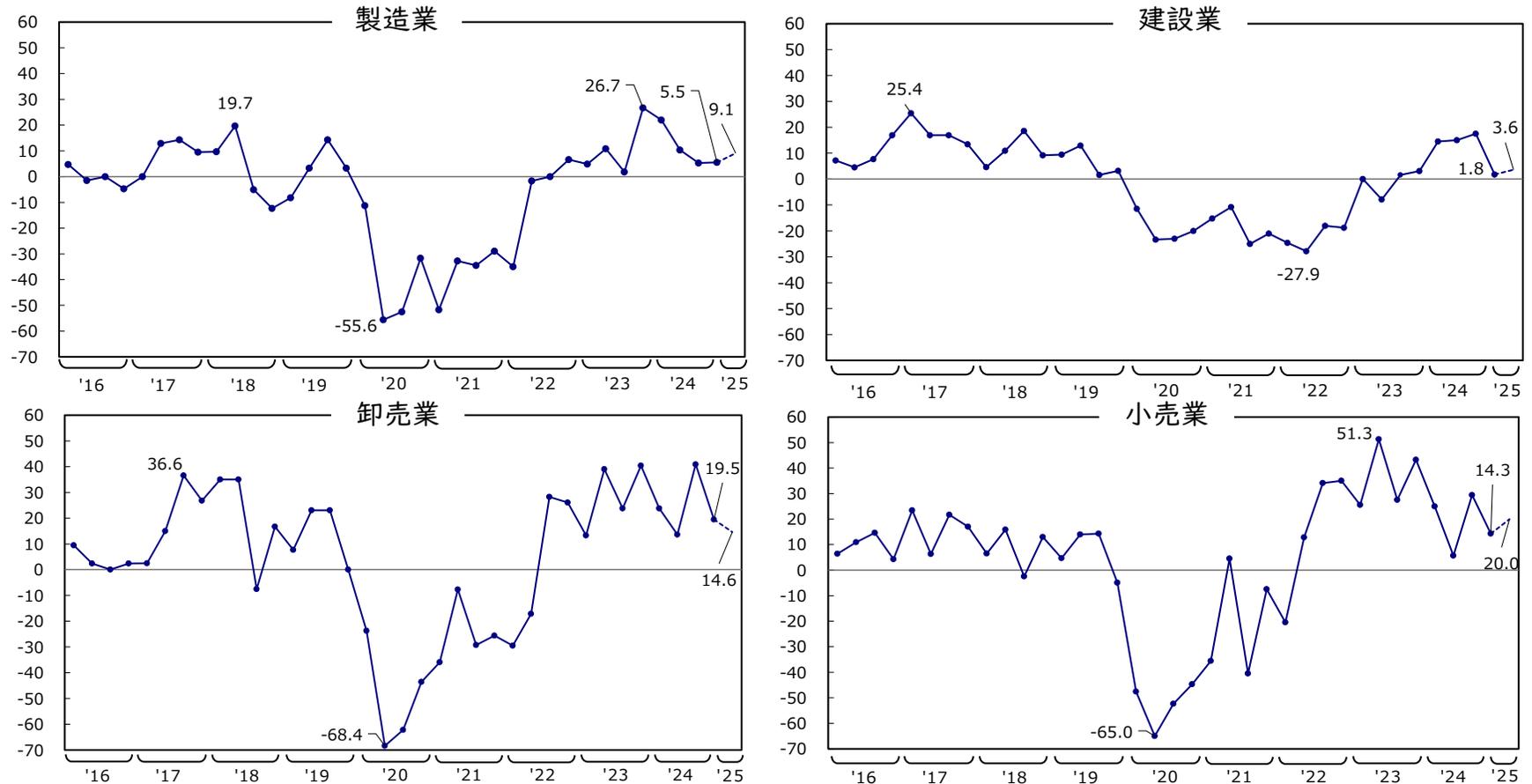
図表3 業況判断D.I.（前年同期比、「好転」-「悪化」企業割合）（単位：%ポイント）

業種	区分	2023年		2024年				2025年	
		7~9月期 実績	10~12月期 実績	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期	10~12月期		1~3月期
						前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①-②)	18.0	21.0	18.2	12.5	22.0	(16.9)	9.7	9.0
	① 好転(%)	35.7	37.5	34.8	29.2	33.4	(27.7)	27.0	22.0
	不変(%)	46.6	46.0	48.6	54.2	55.1	(61.5)	55.7	65.0
	② 悪化(%)	17.7	16.5	16.6	16.7	11.5	(10.8)	17.3	13.0
	製造業	1.8	26.7	22.0	10.3	5.3	(5.3)	5.5	9.1
	建設業	1.6	3.1	14.5	15.0	17.5	(17.5)	1.8	3.6
	卸売業	23.8	40.4	23.8	13.6	40.9	(27.3)	19.5	14.6
	小売業	27.5	43.2	25.0	5.7	29.4	(23.5)	14.3	20.0
	運輸業	28.1	19.4	9.4	33.3	22.6	(22.6)	23.3	13.3
	情報通信業(※)	△ 5.3	△ 27.8	△ 5.3	△ 11.8	0.0	(20.0)	6.3	6.3
	サービス業	24.4	17.5	19.5	5.1	15.0	(7.5)	△ 7.5	△ 2.5
	飲食店・宿泊業	63.0	28.6	24.0	23.1	53.6	(21.4)	29.2	12.5

※情報通信業は、①通信業、②放送業、③情報サービス業、④出版・新聞業から構成される。

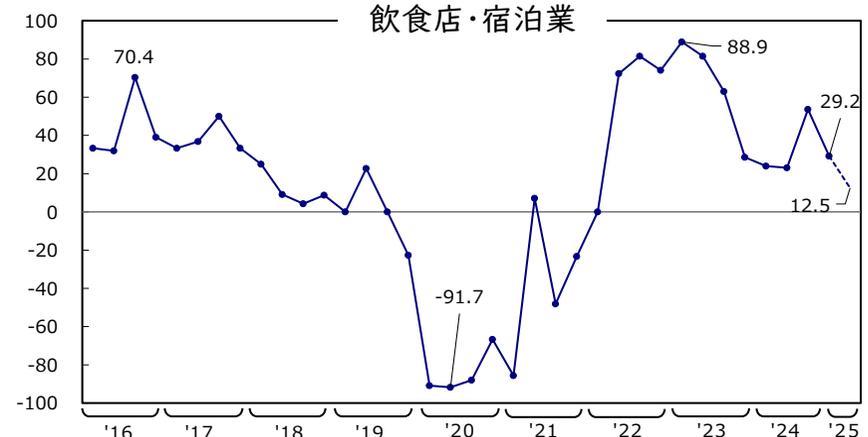
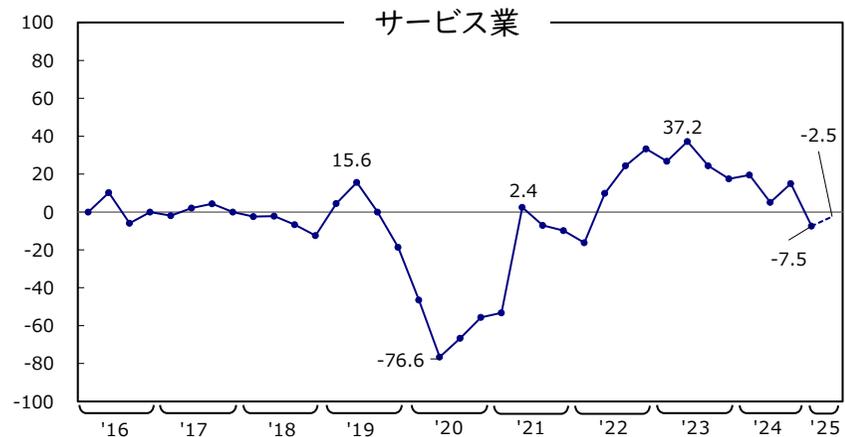
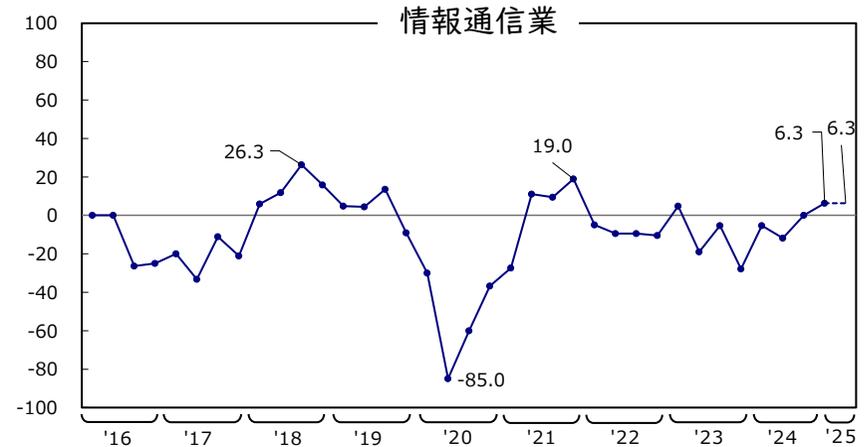
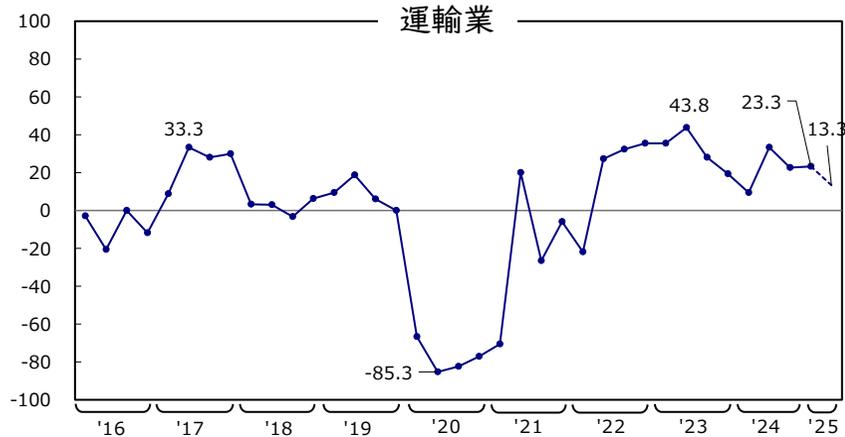
- 製造業では、食料品を中心に価格転嫁の効果により売上を確保したこと、観光向け包装・梱包資材の販売数量が増加したこと、建設需要による建設資材の出荷が堅調に推移したことから、「好転」超幅がほぼ横這いとなった。
- 建設業では、一時的な受注の減少や人手不足による営業機会の損失により業況が悪化した先がみられたものの、当面は安定して受注が見込めると回答した先も多く、引き続き「好転」超を維持した。
- 小売業では、百貨店・スーパー、観光土産品で物価高による買い控えの影響が限定的であったこと、外国客の増加をうけて、引き続き業況は「好転」超となった。

図表4-1 業種別の業況判断D.I.の推移 (単位:%ポイント、点線は見通し)



- 情報通信業では、放送業で広告収入がコロナ禍前の水準に回復しつつあり、「保合い」から「好転」超へ転じた。
- サービス業では、天候不良や最低賃金の改定による人件費の増加をうけて、「好転」超から「悪化」超へ転じた。
- 飲食店・宿泊業では、「好転」超幅が大幅に縮小したものの、ホテルの「不変」回答へのシフトによるもので、観光客向けの飲食店では価格転嫁や外国客の増加により売上が増加したことで、引き続き「好転」超となった。

図表4-2 業種別の業況判断D.I.の推移 (単位:%ポイント、点線は見通し)



2. 景況天気

— 当期は10期連続の「晴れ」、来期も「晴れ」の見通し —

- 当期の県内企業の動向を全産業ベースで見ると、売上D.I. (23.9→13.0) で「増加」超幅が大幅に縮小、資金繰りD.I. (7.3→1.0) で「楽」超幅が縮小したものの、採算水準D.I. (29.3→28.7) で「黒字」超幅がほぼ横這いとなったことから、景況天気 (20.2→14.2) は10期連続の「晴れ」となった。
- 来期の見通しは、資金繰りD.I. (△1.3) で「楽」超から「苦しい」超へ転じるものの、売上D.I. (13.3) で「増加」超幅がほぼ横這い、採算水準D.I. (26.7) で「黒字」超幅がほぼ横這いとなることから、景況天気 (12.9) は「晴れ」の見通し。

図表5-1 景況天気図 (売上D.I.、採算水準D.I.、資金繰りD.I.の平均値) (単位:%ポイント)

業種	区分	2023年		2024年				2025年	
		7~9月期 実績	10~12月期 実績	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期 前回実績	10~12月期 前回見通し	10~12月期 今回実績	1~3月期 今回見通し
全産業		17.7	21.0	18.1	16.6	20.2	(15.9)	14.2	12.9
製造業		8.3	25.0	26.0	19.5	18.1	(12.9)	12.1	10.3
建設業		2.7	6.3	9.1	11.1	8.2	(11.1)	3.0	5.4
卸売業		33.3	38.3	33.3	30.3	35.6	(28.8)	26.8	28.5
小売業		26.7	33.3	25.9	15.2	32.4	(27.5)	21.9	19.0
運輸業		25.0	24.7	18.8	24.4	22.6	(26.9)	21.1	17.8
情報通信業		△22.8	△27.8	△21.1	△3.9	△5.0	(3.3)	△4.2	2.1
サービス業		19.5	19.2	17.1	12.8	11.7	(7.5)	10.0	8.3
飲食店・宿泊業		50.6	32.1	14.7	12.8	39.3	(6.0)	23.6	8.3

	快晴	—	30以上~100以下
	晴	—	10以上~30未満
	薄曇り	—	△5以上~10未満
	曇り	—	△30以上~△5未満
	雨	—	△100以上~△30未満

図表5-2 全産業における主要3指標の推移

区分	2024年			2025年
	7~9月期 前回実績	10~12月期 前回見通し	10~12月期 今回実績	1~3月期 今回見通し
全産業				
売上D.I.	23.9	(14.3)	13.0	13.3
採算水準D.I.	29.3	(32.2)	28.7	26.7
資金繰りD.I.	7.3	(1.3)	1.0	△1.3

3. 売上

— 当期は「増加」超幅が大幅に縮小、来期は「増加」超幅がほぼ横這いの見通し —

- 当期の売上D.I.は、全産業で13.0と「増加」超幅が大幅に縮小した。
- 建設業では、「増加」超から「減少」超へ転じたものの、一時的な受注の減少や人手不足による機会損失が一部にみられたため、公共・民間工事ともに受注は堅調に推移した。
- 来期は、全産業で13.3と「増加」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表6 売上D.I. (前年同期比、「増加」-「減少」企業割合)

(単位:%ポイント)

区分 業種	2023年		2024年				2025年	
	7~9月期 実績	10~12月期 実績	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期 前回実績	10~12月期 前回見通し	1~3月期 今回実績	
					今回見通し	今回見通し	今回見通し	
全産業 D.I. (①—②)	21.4	27.4	21.6	11.9	23.9	(14.3)	13.0	13.3
① 増加(%)	46.9	48.5	43.9	36.9	44.9	(34.1)	37.3	32.0
不変(%)	27.6	30.5	33.9	38.1	34.1	(46.2)	38.3	49.3
② 減少(%)	25.5	21.0	22.3	25.0	21.0	(19.7)	24.3	18.7
製造業	7.1	38.3	27.1	17.2	7.0	(0.0)	7.3	12.7
建設業	△ 4.8	4.7	3.2	0.0	5.3	(0.0)	△ 8.9	△ 5.4
卸売業	33.3	48.9	35.7	25.0	50.0	(31.8)	31.7	31.7
小売業	45.0	54.1	38.9	11.4	41.2	(29.4)	11.4	17.1
運輸業	31.3	25.8	21.9	30.0	35.5	(32.3)	30.0	23.3
情報通信業	△ 21.1	△ 27.8	△ 36.8	△ 17.6	△ 5.0	(5.0)	△ 6.3	12.5
サービス業	26.8	20.0	29.3	5.1	17.5	(7.5)	15.0	7.5
飲食店・宿泊業	66.7	39.3	40.0	19.2	57.1	(21.4)	33.3	16.7

4. 採算水準

— 当期は「黒字」超幅がほぼ横這い、来期も「黒字」超幅がほぼ横這いの見通し —

- 当期の採算水準D.I.は全産業で28.7と「黒字」超幅がほぼ横這いとなり、情報通信業以外のすべての業種で「黒字」超となった。
- 来期は、全産業で26.7と「黒字」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表7 採算水準D.I. (当該期、「黒字」-「赤字」企業割合)

(単位:%ポイント)

区分 業種	2023年		2024年				2025年	
	7~9月期 実績	10~12月期 実績	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期	10~12月期		1~3月期
					前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業 D.I. (①—②)	24.5	31.7	31.0	32.4	29.3	(32.2)	28.7	26.7
① 黒字(%)	42.9	46.6	47.0	46.2	46.2	(43.6)	44.7	40.3
トト(%)	38.8	38.4	37.0	40.1	36.9	(44.9)	39.3	46.0
② 赤字(%)	18.3	14.9	16.0	13.8	16.9	(11.5)	16.0	13.7
製造業	10.7	36.7	37.3	36.2	38.6	(33.3)	27.3	16.4
建設業	19.4	17.2	27.4	26.7	14.0	(26.3)	16.1	23.2
卸売業	69.0	66.0	61.9	56.8	56.8	(59.1)	58.5	58.5
小売業	25.0	37.8	30.6	34.3	41.2	(44.1)	42.9	34.3
運輸業	21.9	35.5	31.3	40.0	25.8	(38.7)	26.7	30.0
情報通信業	△ 36.8	△ 38.9	0.0	5.9	△ 25.0	(0.0)	△ 18.8	△ 6.3
サービス業	22.0	32.5	31.7	30.8	22.5	(27.5)	25.0	27.5
飲食店・宿泊業	44.4	25.0	△ 8.0	3.8	35.7	(7.1)	33.3	8.3

5. 資金繰り

— 当期は「楽」超幅が縮小、来期は「楽」超から「苦しい」超へ転じる見通し —

- 当期の資金繰りD.I.は、全産業で1.0と「楽」超幅が縮小となった。
- 卸売業ではコロナ関連借入金の返済負担の懸念から、サービス業では経費立替、設備修繕費用の一時的な負担から資金繰りが悪化しているとの声があった。
- 来期は、全産業で△1.3と「楽」超から「苦しい」超へ転じる見通しとなっている。

図表8 資金繰りD.I. (前年同期比、「楽」-「苦しい」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2023年		2024年				2025年	
		7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期		1~3月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①—②)	7.1	4.0	1.6	5.4	7.3	(1.3)	1.0	△ 1.3
	① 楽 (%)	15.2	13.1	11.9	13.1	15.3	(11.5)	11.3	8.3
	不変 (%)	76.7	77.7	77.7	79.2	76.8	(78.3)	78.3	82.0
	② 苦しい (%)	8.1	9.1	10.3	7.7	8.0	(10.2)	10.3	9.7
	製造業	7.1	0.0	13.6	5.2	8.8	(5.3)	1.8	1.8
	建設業	△ 6.5	△ 3.1	△ 3.2	6.7	5.3	(7.0)	1.8	△ 1.8
	卸売業	△ 2.4	0.0	2.4	9.1	0.0	(△4.5)	△ 9.8	△ 4.9
	小売業	10.0	8.1	8.3	0.0	14.7	(8.8)	11.4	5.7
	運輸業	21.9	12.9	3.1	3.3	6.5	(9.7)	6.7	0.0
	情報通信業	△ 10.5	△ 16.7	△ 26.3	0.0	15.0	(5.0)	12.5	0.0
	サービス業	9.8	5.0	△ 9.8	2.6	△ 5.0	(△12.5)	△ 10.0	△ 10.0
	飲食店・宿泊業	40.7	32.1	12.0	15.4	25.0	(△10.7)	4.2	0.0

6. 借入難易

— 当期は「容易」超幅がほぼ横這い、来期も「容易」超幅がほぼ横這いの見通し —

- 当期の民間金融機関からの借入難易D.I.は、全産業で7.7と「容易」超幅がほぼ横這いとなった。
- 来期は、全産業で7.0と「容易」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表9 借入難易D.I. (前年同期比、「容易」-「困難」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2023年		2024年				2025年	
		7~9月期 実績	10~12月期 実績	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期	10~12月期		1~3月期
						前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①-②)	6.2	3.0	4.4	3.5	7.0	(7.3)	7.7	7.0
	① 容易(%)	8.7	5.5	6.9	5.8	7.3	(8.0)	8.7	8.0
	不変(%)	88.8	92.1	90.6	92.0	92.4	(91.4)	90.3	91.0
	② 困難(%)	2.5	2.4	2.5	2.2	0.3	(0.6)	1.0	1.0
	製造業	7.1	3.3	6.8	5.2	10.5	(10.5)	10.9	9.1
	建設業	3.2	3.1	4.8	5.0	5.3	(7.0)	12.5	12.5
	卸売業	7.1	2.1	7.1	4.5	4.5	(4.5)	4.9	4.9
	小売業	5.0	0.0	11.1	2.9	8.8	(5.9)	0.0	0.0
	運輸業	9.4	6.5	△ 6.3	0.0	0.0	(3.2)	0.0	0.0
	情報通信業	△ 5.3	5.6	0.0	0.0	5.0	(5.0)	0.0	0.0
	サービス業	9.8	2.5	0.0	2.6	10.0	(10.0)	7.5	5.0
	飲食店・宿泊業	11.1	3.6	8.0	3.8	10.7	(10.7)	20.8	20.8

Ⅲ. 参考 販売数量、販売価格

参考1. 販売数量 ※製造業・卸売業・小売業のみ

- 当期は2.3と「増加」超幅が大幅に縮小した。来期は5.3と「増加」超幅がやや拡大する見通しとなっている。

図表10 販売数量D.I. (前年同期比、「増加」-「減少」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2023年		2024年				2025年	
		7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期		1~3月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①-②)	5.8	23.6	10.2	△ 7.3	15.6	(8.9)	2.3	5.3
	① 増加(%)	38.4	44.4	36.5	25.5	38.5	(29.6)	32.8	30.5
	不変(%)	29.0	34.0	37.2	41.6	38.5	(49.6)	36.6	44.3
	② 減少(%)	32.6	20.8	26.3	32.8	23.0	(20.7)	30.5	25.2

参考2. 販売価格 ※製造業・卸売業・小売業のみ

- 当期は46.6と「上昇」超幅がやや縮小した。来期は44.3と「上昇」超幅がやや縮小の見通しとなっている。

図表11 販売価格D.I. (前年同期比、「上昇」-「下降」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2023年		2024年				2025年	
		7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期		1~3月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①-②)	71.7	63.2	49.6	52.6	48.9	(51.9)	46.6	44.3
	① 上昇(%)	73.9	67.4	55.5	56.9	54.8	(57.0)	52.7	50.4
	不変(%)	23.9	27.8	38.7	38.7	39.3	(37.8)	41.2	43.5
	② 下降(%)	2.2	4.2	5.8	4.4	5.9	(5.2)	6.1	6.1

在庫水準、雇用判断

参考3. 在庫水準 ※製造業・卸売業・小売業のみ

- 当期末は△3.8と、前期末と比べて「過剰」超幅がやや縮小した。

図表12 在庫水準D.I. (当該期末の水準、「不足」-「過剰」企業割合) (単位:%ポイント)

業種	区分	2023年		2024年			
		9月期末	12月期末	3月期末	6月期末	9月期末	12月期末
全産業D.I. (①-②)		1.4	△ 6.3	△ 0.7	△ 2.9	△ 6.7	△ 3.8
	① 不足(%)	10.1	4.9	9.5	7.3	4.4	5.3
	適正(%)	81.2	83.3	80.3	82.5	84.4	85.5
	② 過剰(%)	8.7	11.1	10.2	10.2	11.1	9.2

参考4. 雇用判断

- 当期の雇用判断D.I.は、全産業で54.0と「不足」超幅がやや縮小となった。
- 来期は、全産業で54.7と「不足」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表13 雇用判断D.I. (当該期、「不足」-「過剰」企業割合) (単位:%ポイント)

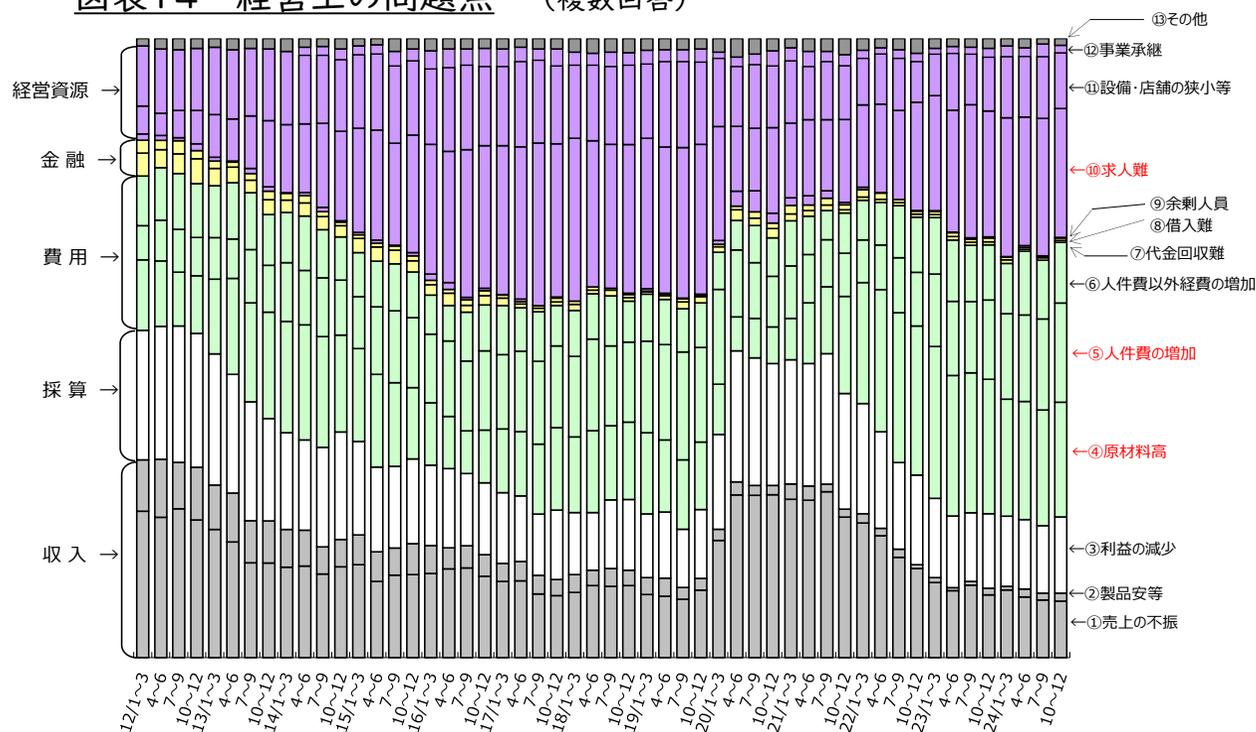
業種	区分	2023年		2024年				2025年	
		7~9月期 実績	10~12月期 実績	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期		10~12月期	
						前回実績	今回実績		
全産業	D.I (①-②)	50.3	54.9	58.9	56.4	57.3	(56.1)	54.0	54.7
	① 不足(%)	51.9	56.4	60.2	57.7	58.9	(57.0)	55.3	55.3
	適正(%)	46.6	42.1	38.6	41.0	39.5	(42.0)	43.3	44.0
	② 過剰(%)	1.6	1.5	1.3	1.3	1.6	(1.0)	1.3	0.7

経営上の問題点

参考5. 経営上の問題点

- 経営上の問題点としては、4期連続「求人難」の割合が最も高く、続いて「原材料高」、「人件費の増加」の順となった。
- サービス業をはじめとして「人件費の増加」が占める割合が6期連続で上昇している。

図表14 経営上の問題点 (複数回答)



(単位:%)

区分		全産業
①	売上の不振	9.1
②	製品安等	1.3
③	利益の減少	12.3
④	原材料高	18.5
⑤	人件費の増加	16.0
⑥	人件費以外経費の増加	9.8
⑦	代金回収難	0.3
⑧	借入難	0.4
⑨	余剰人員	0.1
⑩	求人難	20.8
⑪	設備・店舗の狭小等	9.0
⑫	事業承継	1.2
⑬	その他	1.1